

●取材協力●

ふくしま復興支援  
学生ネットワーク  
メールアドレス：  
fukushima.nw@gmail.com



## ふくしま復興支援学生ネットワーク

～出会い、つながることで広がる可能性～



桜の聖母短期大学の指導による「がんばっぺ体操」のレクチャーの様子。参加者とともに元気に体操。



縁日イベントでは、福島大学に通うベトナム人留学生の協力を得て、ベトナム風あんみつ「チー」を販売。



8月30日に開催された「ふくしま復興支援学生ネットワーク会議」。参加校の中には、群馬大や福島工業高等専門学校もあり、被災地復興の支援のあり方についてたくさんの意見が交わされました。

各地域で行われていた学生のボランティア活動は、大きな輪になろうとしています。7月から本格的に活動を開始している「ふくしま復興支援学生ネットワーク」では、県内の大学・短期大学・専門学校の学生らがついで、月1回のネットワーク会議、メーリングリストなどでお互いの情報を交換しながら新しいボランティア活動の可能性を探っています。8月30日開催のネットワーク会議の様子からご紹介します。

### 学生たちの声が多なり合って 大きな絆に

「人が好き。これが私の原動力です」と話してくれたのは、ふくしま復興支援学生ネットワーク（以下、学生ネットワーク）発起人の高橋あゆみさん（福島大学4年生）。震災後の5月にビッグパレットふくしまに入り、福島大学と郡山市の学生らが中心となって足湯ボランティアを行いました。このときの経験が学生ネットワークを立ち上げるきっかけになったといいます。

「学生ボランティアのネットワークについては、パソコンやメールなどでの声かけも大切ですが、それ以上に会いに行くことを重要視しています。イベントなどがあれば足を



学生ネットワーク発起人の福島大学の高橋あゆみさん。「たくさんの人と会うことで、新しい可能性が見つかると思います」。

### 地域色や大学の専門性を 学生ネットワークで活かす

こび、現地の学生の声を直接聞くことで何が問題なのかを一緒に考えていきます」と高橋さん。こうしてつながった絆は次々と仲間を増やし、全県に広がる学生ネットワークとして形を整えていきました。

現在、学生ネットワークは4つのブロックに分かれており、メンバーが情報を共有しています。アドバイザーには、ふくしま学生災害ボランティア支援チーム（教員）と福島県災害ボランティアセンター（県社協）が入っています（次ページ参照）。

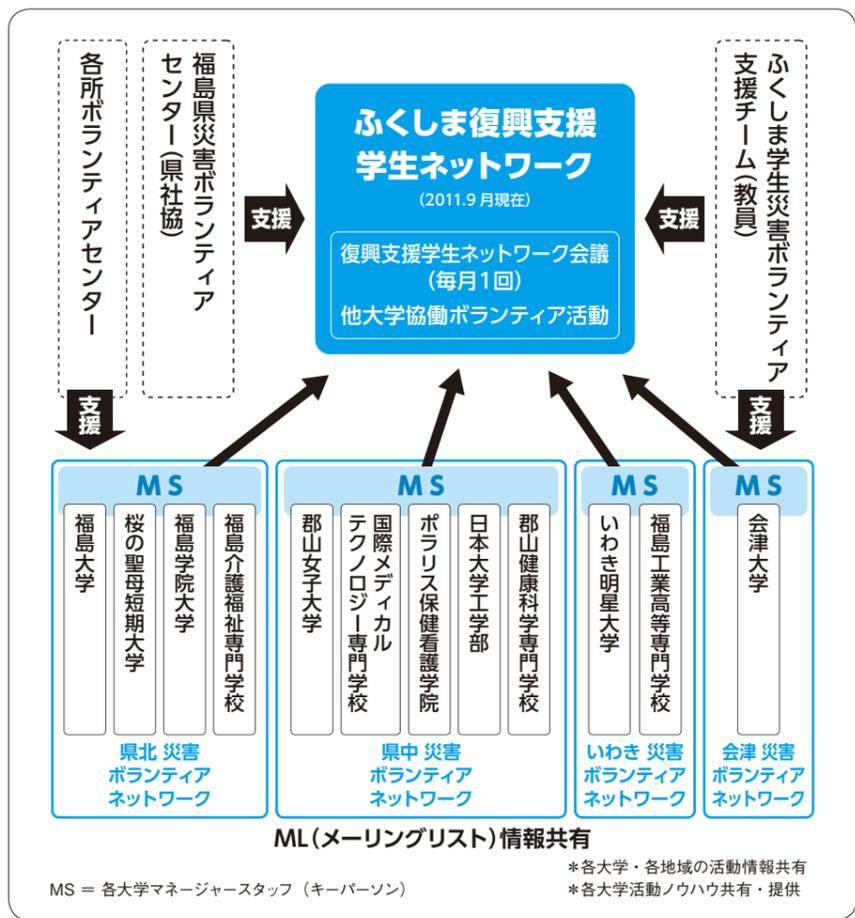
学生ネットワークでは、去る8月16日に福島市内にある浪江町の仮設住宅で開催された「縁日イベント」に参加し、模擬店の企画から運営までをメンバーで分担して行いました。当日は地域の方々と大いに盛り上がり、いま必要な支援についてうかがう機会にもなりました。縁日イベントに参加した平間菜由さん（桜

の聖母短期大学2年生）は、「私たちの大学では、避難所生活をおくる方の運動不足を少しでも解消しようと、子どもから高齢者まで無理なく楽しめる。がんばっぺ体操で復興を応援しています。今日の会議では、がんばっぺ体操に足湯の活動を組み合わせ、仮設住宅でやってみてはどうかという意見が出ました。中には厳しい意見もありますが、新しい



桜の聖母短期大学の平間菜由さん。「がんばっぺ体操を避難所で実演したときは、被災者の皆さんから逆パワーをいただきました」。

視点はとても刺激になります。こうした各地域の学生のリアルな声が学生ネットワークを動かす原動力に



「被災地いわき市で学ぶ学生として、みんなと一緒にできることがあるはず」といわき明星大学の本宮滉也さん。

なっているようです。今回、初めて学生ネットワークに参加した会津大学の堀口尚哉さん（大学院修士2年生）は、「同じ目的や熱意を持つ学生がこんなに集まっていることに驚きました。大学にはそれぞれ専門性があるので、地域色や特色を活かしたつながりが持てる」と良いのでは」と、学生ならではのボランティア活動に新しい可能性を感じています。甚大な被害を受けたいわき市からは、いわき明星大学が学生ネットワークに手を挙げました。本宮滉也さん（いわき明星大学2年生）は、「ボランティア活動をした」と思っている学生は多いけれど、具体的な活動に上手に結びつけられない側面もあります。学生ネットワークを通して、地域との結びつきを



「今日の意見を会津の仲間を持ち帰ります。大学寮の寮長を務めているので、地域貢献の一つとして参加したい」と会津大学の堀口尚哉さん。

もっと強く感じたい」と意気込みを話してくれました。

### お互いのことをよく知って 福島県をもっと元気に！

会議の最後に、県社協アドバイザーから「すべての方部のメンバーが集まって、学生ネットワークとして本格的に動き出したのは嬉しい限りです。仮設住宅で暮らす方々の支援については、ぜひ社協とも協働しながら活動してほしい」とコメントがありました。

学生ネットワーク立ち上げからのメンバーの一人、伊藤航さん（福島大学4年生）は、「つながりが大きくなった分、意見の調整が難しいことも出てきました。まずはお互いのことをよく知って、みんなももっと仲良くなりたい。そして、福島県をもっと元気にしたい。その仕掛けをみんなと楽しみながら創りたいです」と今後の展望を話してくれました。



「活動するだけでなく、反省会などもやりたい。メンバーのみんなとじっくり話し合える時間がほしいですね」と福島大学の伊藤航さん。